

件名 長崎大学における感染症研究拠点の早期整備を求める請願について

現在、リベリアなど西アフリカ諸国でエボラ出血熱が流行・蔓延しています。西アフリカ以外でも米国などで感染者・死者が発生しており、先進国も感染拡大の脅威にさらされています。日本においても、すでに複数の感染疑い例が出ており、その対応が大きな社会問題となっています。

グローバル化が進展する今日、こうした状況は、長崎市民はもとより、国内外から長崎市を訪れる人々の安全・安心に関わる重要な問題であります。

エボラ出血熱をはじめとする新興感染症やデング熱などの再興感染症の流行に対し、これまでの実績と多数の優れた感染症研究者の人材を有する長崎大学において、高度安全実験（BSL-4）施設を中核とした感染症研究を進展させることは、世界、日本の感染症研究の飛躍的な進歩が図られるだけでなく、長崎大学の学術研究の発展は、地域の発展にも大きく寄与するものと考えております。また、エボラ出血熱などに対応できる県内唯一の第一種感染症指定医療機関である長崎大学病院と連携することで市民の安全・安心にも大きく寄与できます。

つきましては、長崎大学における BSL-4 施設を中核とした感染症研究拠点の早期整備を推進するとともに、市民はもとより、安全・安心な国際観光都市長崎を世界に発信するため、BSL-4 施設の建設及び当該施設を活用した研究の推進が図られるよう、次の事項について、格段のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【請願項目】

1. 新興・再興感染症に関する情報収集・発信、感染者発生時の対策などにおいて、長崎市と長崎大学との連携体制を構築すること。
2. 長崎大学における感染症研究拠点の早期整備を推進するため、計画を進めている BSL-4 施設の設置に向け、長崎市は長崎大学と協力してその課題の解決にあたること。
3. 長崎市と長崎大学は協定等の合意文書を取り交わして、以上を着実に推進すること。

請願提出の背景及び理由

【エボラ出血熱の現状】

現在、リベリア、ギニア、シエラレオネなど西アフリカ諸国でエボラ出血熱が流行・蔓延しています。西アフリカ以外でも米国をはじめ感染者・死者が発生するなど先進国も感染拡大の脅威にさらされています。日本においても、すでに複数の感染疑い例の対応が社会問題になっています。また、政府においてはエボラ出血熱関係閣僚会議が開催されるなど、感染症に対する予防・早期発見・即時対応のための対策は我が国において喫緊の課題となっています。

【我が国における感染症研究拠点整備の動き】

平成 26 年 2 月に日本学術会議において「マスタープラン 2014」が新たに策定され、実施すべき「重点大型研究計画」として、「高度安全実験 (BSL-4) 施設を中核とした感染症研究拠点の形成」が選定されました。これを踏まえ、8 月には、文部科学省の科学技術・学術審議会が策定した「ロードマップ 2014」においても、特に速やかに実施すべき計画として記載され、学術研究上の重要性が認識されました。

【長崎大学における感染症研究の実績】

長崎大学は、昭和 17 年に設置された長崎医科大学附属東亜風土病研究所に創基をもつ熱帯医学研究所を中心に、多数の卓越した感染症研究者が集まり、我が国でもトップレベルの感染症研究を推進しているところです。

また、デングウイルス、日本脳炎ウイルス等のフィールド調査と分子生物学的解析を通して、熱帯感染症の診断法開発や疾病対策、エボラウイルスやマールブルグウイルスなどの出血熱ウイルスや鳥インフルエンザなど重篤な疾患を引き起こす高病原性ウイルスの増殖機構の解明等の研究について、実績を積み重ねてきています。

最近では、エボラ出血熱対策のため、世界保健機関 (WHO) やエボラ蔓延地域での医療活動に教員を派遣するなど、世界的な貢献を果たしているところです。また、長崎大学病院は県内唯一の第一種感染症指定医療機関であり、特色である国際医療センター内に BSL-4 ウイルス感染患者を収容できる第一

種感染症病床を有しているなど、ソフト・ハード面において、実績と能力を有しています。長崎大学に BSL-4 施設が設置されれば、第一種感染症病床と実験施設を併せ持つ国内唯一の施設となります。この二つの施設が揃って初めて総合的に感染症の脅威に対抗策を講じることが出来る施設となります。

【BSL-4 施設の必要性】

エボラ出血熱のように、危険度が増す感染症の脅威に立ち向かうためには、学術的な基礎研究、ワクチン・診断・治療法開発等の応用研究、患者発生の際の検査や人材育成が大きな課題であり、そのためにはこれらの研究・教育が可能である BSL-4 施設の設置が不可欠であります。

BSL-4 施設は、排気、廃液の処理に至るまで、WHO が制定した実験室生物安全指針や感染症法に基づく厳しい規制の下、最新の技術と設備により設計、建設されることから、極めて安全な施設であるといえます。

このような BSL-4 施設を設置し、感染症制圧の研究や人材育成を進めることは、世界、日本の感染症研究の飛躍的な進歩が図られるだけでなく、長崎大学の学術研究の発展は地域の発展にも寄与するものです。

また、長崎大学としては、BSL-4 施設設置計画には、地元の理解が不可欠であるとの認識に立ち、これまで、地域の方々や市民に対する説明会や講演会を重ねてきております。

【長崎市における市民等の安全・安心の確保】

長崎市を訪れる観光客の数は平成 25 年に 607 万 8000 人となり、前年より 12 万 5100 人、2.1%増加しています（平成 26 年 3 月長崎市観光統計）。今後も、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産への登録推進により、さらに増加することが予想されます。長崎市民はもとより、市外からの多数の観光客の安全・安心を確保することは、長崎市にとって重要な問題であると認識しています。